

五七 小山田信有ら郡内衆、岩殿山円通寺の再建に奉加する

永正一七年(三〇)

棟札之事

行基菩薩建立大同元年以來、到_三永正十七年、依而及_三大破_一、爰上総国住僧賢覺阿闍梨、為_三本願_一、追_三万民_一之処、少破修理事、仍而御奉加之事

鳥目百匹 武田左衛門大輔信友、駒一匹太刀一腰 当郡主護平信_(守)_(小山田)

有、駒一匹太刀一腰 平藤丸上之奉行、駒一匹太刀一腰 藤原道光

下之奉行、太刀一腰 源実次、駒一匹太刀一腰 継吉、駒一匹太刀

一腰 藤原実吉、駒一匹太刀一腰 藤原長吉、駒一匹太刀一腰 源

恵長、駒一匹 源重胤、駒一匹 家重、三百文 白洲信重、二百文

内匠助長吉、五百文 其時当郷代官長沼以秀、五百文 奥秋神右衛

門尉長吉、二百文 牛田若狭守、二百文 奥秋大蔵、百文 禪祐、

五百文 強瀬四郎三郎、扉之本願 志村左近進長吉、駒一匹強瀬六

郎右衛門、同所二百文 八郎右衛門、三百文 藤崎番匠勝右衛門、

〔甲斐国志〕(仏寺部)

【解説】 『勝山記』によれば、永正五年(三〇)十二月、小山田氏は武田信虎と合戦して敗れ、多くの人々が討死したり、伊豆蓮山へ逃亡している。同七年春には、武田氏との和睦が成立し、両者の対決は一段落した。しかし永正十二年(三五)頃から駿河の今川勢が甲斐に侵入しはじめ、小山田信有は武田方として出陣している。同十五年五月、都留郡内野の渡辺式部丞の仲介によって今川氏と小山田氏との和睦が成立した。

円通寺(大月市賑岡町)は郡内最大の修験寺院であって、岩殿山と称して早くから栄えていた。しかしこの時期には堂塔が大破しており、賢覺阿闍梨が本願となつて再建奉加金を集めた。この時の棟札によると、武田信虎の弟勝沼信友を筆頭に郡内の有力者が種々の寄進をしている。とりわけ小山田信有に関しては「当郡主護」との肩書が付されていて注目されるものである。藤丸はその子出羽守信有という。